

会 議 の 要 旨

会議の名称	第7回川越市介護保険事業計画等審議会
開催日時	平成29年2月3日(金) 午後2時 開会 ・ 午後4時 閉会
開催場所	川越市医師会館講堂A B
議長氏名	会長 齊藤 正身
出席委員氏名	海沼委員、桐野委員、柿田委員、中原委員、伊藤委員、宮山委員、 萩原委員、藤林委員、橋本委員、荻野委員、小林(勝)委員、 長峰委員、芝波田委員、船津委員、米原委員、原委員、小林(宣)委員、 矢代委員、横田委員、若海委員
欠席委員氏名	荻窪委員
事務局職員氏名	関根福祉部長 健康づくり支援課：早川課長、佐藤副主幹 高齢者いきがい課：萩原課長、宮下副課長、矢崎副主幹、真坂主任 介護保険課：小高副部長、今井副課長、鍛冶副主幹、筒井主査 地域包括ケア推進課：福原参事、三佐崎副課長、佐藤主幹、 福島副主幹、門倉主査
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 報告 (1) 第6回川越市介護保険事業計画等審議会について 4 議事 (1) 東・西後楽会館の現状と課題について (2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の分析について 5 その他 6 閉会
配布資料	1 次第 2 第6回川越市介護保険事業計画等審議会議事録…資料1 3 東・西後楽会館の現状と課題について…資料2 4 自治会老人憩いの家分布図…資料2参考 5 平成28年度介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の回収状況 …資料3-1 6 調査等の活用イメージ(案)…資料3-2 7 アンケート調査報告書の構成(案)…資料3-3 8 アンケート調査報告書のイメージ…資料3-4 9 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査集計(案)…資料3-5 10 保健・福祉等実態調査(40~64歳)集計(案)…資料3-6 11 保健・福祉等実態調査【介護保険認定者】集計(案)…資料3-7 12 地域住民等による支え合い活動に関する分析(案)…資料3-8

## 議事の経過

### 1 開会

### 2 挨拶

会長による開会の挨拶

### 3 報告

- (1) 第6回川越市介護保険事業計画等審議会について  
事務局より、資料1を用いて報告

#### (事務局)

前回の審議会において、委員より「ニーズ調査個別の活用方法は未把握とあるが、活用状況を把握してどのような結果だったというのはいつ頃まとめられるのか教えていただきたい」という質問があった。この件については、国の資料であったため、国に確認したところ、国が市町村に対し行った第6期市町村介護保険事業計画に関するアンケートにより、各市町村が計画を作成するうえでニーズ調査等を活用しているか否かについては把握しているが、実際に計画のどの部分に活用したかまでは把握していないため、このような表記になったとのことだった。この質問に対する回答は以上となる。この他、前回審議いただいた第7期介護保険事業計画等策定に向けたアンケート調査についてもいろいろ意見をいただいているので、本日の議事(2)において説明していきたいと考えている。

### 4 議事

- (1) 東・西後楽会館の現状と課題について  
事務局より、資料2及び資料2参考を用いて説明

#### (委員)

耐震の問題とか老朽化の具合を考えると、廃止・休止もやむを得ないのかなと思うが、廃止・休止することによって、今利用している方が困るようなことはないのか。例えば、お風呂、自宅で入れなくて利用しているとか、交流の場が減ると引きこもりがちになるとか、そういった支障はないのか。

#### (事務局)

東・西後楽会館の意義というのが、お風呂とカラオケとつどいの場というところを説明したところだが、お風呂とカラオケがすべてというよりは、できればつどいの場の方に焦点を置きたいという考えである。高齢者の人口が増えているのに利用者が30%程度減っている。それを考慮すると、2つを1つにして西後楽会館のみとなっても、利用者の受け入れは十分

可能なのではないかと考えている。あとは、施設が西の方にあるので、アクセス的なものを考えなくてはならない。

**(委員)**

東後楽会館を廃止という方向にするにあたって、利用者とか諸団体等に説明のようなものをどのように考えているのか。

**(事務局)**

一番利用しているのは高齢者の方なので、老人クラブ連合会には次回の理事会にこちらから説明に行きたいと考えている。また、地元の方についても説明した方がいいのではないかとということになれば、その辺も考えていきたい。今回、初めてこの方針を出したということで、意見を参考にさせていただきながら検討していきたいと考えている。

**(委員)**

つどいの場を大事にするという話は前回もあったが、地域的にそのつどいの場を東後楽会館の利用者がどうするのかというところまで踏み込んで示した方が理解していただけるのではないと思うが、それについてはどう考えているのか。

**(事務局)**

今いただいた意見を十分に参考にさせていただき、内部で協議して方向性を付けるような形で進めていきたいと思う。

**(委員)**

資料をみると、平成30年度がまるっきり使えなくなってしまうが、その辺の工夫はできないものか。

**(事務局)**

耐震の問題等があるので、こちらとしては一刻も早くというのがある。東日本大震災においても何とか耐えたというのがある。もし大きな地震があった場合、数値は低いが何とか耐えられる状態ではあるが、これに関してはなってみないとわからない。平成30年度に1年間両方使えないという点については事務局としても論議があるところなので、利用者の意見や要望等があれば、耐震等の問題はあがあるが、東後楽会館の廃止を1年伸ばすということも一つの選択肢としては考えられる。

**(委員)**

先ほど東・西後楽会館がつどいの場という説明があり、また、本日の資料で分布図として自治会館と老人憩いの家のマップが示されているが、このそれぞれの位置づけというのはどのようになっているのか確認をさせていただきたい。

**(事務局)**

時代の変化によって今は東・西後楽会館のような大きな施設ではなくて、身近にある自治会とか老人憩いの家のようなつどいの場を充実した方が、地域包括ケアシステムの推進ともリンクしていいのではないかと考えている。ただ、東後楽会館の利用者が年間延べ5万人いるというような状況を見ると二か所を同時に廃止というのではなく、二つを一つにして一つは存続を考えるとというような形で考えている。今後の方向性としては地域にある密着したつどいの場というのを充実していくというような形で考えている。

自治会館と自治会老人憩いの家の関係については、自治会館を新築又は改修するという時に、高齢者いきがい課の事業で、自治会老人憩いの家という部分に補助金を出して整備してもらったという経緯がある。ただ、一つの建物に対して二つの補助金を支出しているというような指摘があったことから、現在は自治会館を新築又は改修する際には、今まで老人憩いの家として出していた補助金も含めて二つの補助金を合わせた形で支出している。マップについては、市の補助金を使った施設がこれだけ市内にあるということを示したものである。

**(委員)**

今後、自治会館を建て替えるなり改修するなりする際にはどういった位置づけになるのか改めて確認させてもらいたい。

**(事務局)**

自治会館の補助金に関しては市民部で対応しているが、従来の自治会の補助金に加え老人憩いの家分の補助金も補助として出しているが、現在は高齢者に限らず、子どもから高齢者まで使える自治会館を作って利用していただくということで市民部の方で補助金を支出している。

**(委員)**

それは理解できたが、これから建てたり改修する場合には老人憩いの家という名前はもう付かないのかということを確認したい。

**(事務局)**

今現在、老人憩いの家の設置に関する補助金の要綱がなくなってしまうっており、老人憩いの家という名称の施設に関しては、既存の整備したもののみとなる。

**(委員)**

昨日、地域の支え合いフォーラムに行かせてもらい、さまざまな意見を聞いてきた。今回の東後楽会館の廃止に関しては、予算的にもこれからどんどん厳しくなっていくのかなと感じている。フォーラムの中の話では、助け合いの精神は予算もかからず、かつ、地元的地縁の中で介護予防をしたりさまざまな効果があるということだった。今後ますます地縁活動や居場所の創設などが重要になってくると思う。フォーラムでは、地縁活動、居場所づくり、有償ボランティア、無償ボランティアこの4件で協力したいかといった内容のアンケートを

手挙げで実施したところ、400名ほどの出席者のうち、平均して7割以上の方が手を挙げていた。現職の民生委員も多くいたが、それを含めても興味がある人が多いと感じた。実際に何人かに聞いてみたところ、非常に興味はあるけれど、どこにいったらそういうのができるのかわからないという方もいた。今後より一層予算をかけずに、そういったたすけあいの精神を醸成していくためには、いろいろな方の意見をしっかりと拾っていくことが重要だと考える。

#### (委員)

はっきり最初に示さないといけないと思う。要するに廃止については、行政がお金を出してフォーマルな仕事として無条件に利用している施設を廃止するんだと。5万人利用している東後楽会館、これをどのようにその後、地域やネットワークが吸収できるかという見通しは今聞いた限りでは分からない範囲である。これらが充実していけば望ましい話であるが、どう展開していくかわからない。ただ、少なくとも現段階で無条件で利用できるフォーマルなものを廃止するということははっきりしているのだから、その部分をはっきりしないと。その受け皿をお金を含めて提供できるといったような錯覚をするので、そうではなく、この5万3千人分をこういう形でどういう所にお金分配して受け皿がという見通しがあるわけではない状況だけれども廃止させていただくという見通しでお示ししたいということを持って回らないと、受ける側が良くわからないので、説明に行くのであればそれははっきりさせてしまった方がいい。そうでないと真の理解が深まらないし、そうでは困るといった声が出てくる可能性があるわけで、そういった声が出てきたらどう対処するのか考えてやらないと、そこをうまく言いくるめられてしまうというな感じは望ましくないのだから、はっきりフォーマルな、今お金を出している部分は残念ながら今の財政状況だとか、今の施設の状況からみたら廃止しますよということはある上で議論したりだとか説明していただきたい。

#### (会長)

資料のグラフを分析すると、平成17年以降から利用者が減っているのは、平成18年から介護予防事業が始まったことが関係していると思われる。この介護予防事業が本格的に始まった時にデイサービスでフィットネスや体幹・筋力トレーニングをやろうということが推奨された。ここの時点で減ってきているのは、もしかすると利用者はデイサービスの方へ流れていったのではないかというように思う。川越市内にはデイサービスが100カ所近くあり介護保険のサービスを利用する方に移ってしまっているものを、国を含めてこれからそうじゃない方にもっていきこうという矢先の話なので、東・西後楽会館をどうするということだけではなくて、それに合わせて具体的にどのように老人憩いの家のようなものをどれだけ整備していくかということと一緒に示さないと利用されている方はなかなか納得しにくいと思う。対案をつくっていかないと壊す壊さないのお金の問題だけでは済まないのではないかと思う。デイサービスは今後使えなくなっていくと思うので、そうではないインフォーマルなものをどうするかとなってきた時のある一つの場所として後楽会館はあったので、それが無くなるので、その対案はしっかり考えていただきたい。

**(委員)**

介護予防事業の受け皿が増えた時期と利用者が減った時期が合っている。一方で、60代後半の団塊の世代はゲートボールをやらない世代で、グランドゴルフに変わったかという  
と、そうではなくて、ゴルフをそのまま継続するといったように、新しい高齢者像が出てきた。嗜好が変わってきている点を踏まえて、例えば団塊の世代が自分勝手にアレンジして活動するから空間だけあればいいよというような要求に変わってくる可能性がある。これからの高齢者の多様性を考慮してどういった設計をしていくか、また、これまで利用された方々が孤独にならないように、そしてますます遠くに行けなくなるので、やはり身近でというのが非常に必要なことだと思う。単にお年寄りということではなくて、高齢者像が複数な形で出てくると、その多様性を考慮して計画をしたらどうかと思う。

**(委員)**

今、生活支援体制整備で市から委託を受けた社会福祉協議会が、自治会長と民生委員全員に支え合いに関するアンケート調査の中でサロンについても聞いている。その結果を2月中に集計するという事なので、市の方でも結果がわかると思う。その結果を踏まえて、今後もっと地域で考えて近場でつどえる場をつくっていかねばと思う。財源の面では、私たちの地域では自治会が光熱費や通う方の保険まで面倒を見てくれているが、今後は行政の方でも関わっていただければと思う。

**(会長)**

今回、市が示した今後の方針について、基本的には致し方ないと考えるが、今出たような意見を具現化していただくとすることが条件だろうか。

**(事務局)**

来年度、介護保険事業計画の策定、見直しの年であるが、この中でいままでも地域包括ケアシステムの構築に係るまちづくりについての書き込みが十分ではなかった。今、委員からいただいた意見を踏まえて多様化する高齢者に対し、どういう施策を講じていくかということを書き込むような形で検討できればと考える。

**(会長)**

後楽会館を要支援の方が利用しているのか、元気な人なのかなど、現状をしっかりと把握したうえで、その対案として何が必要なのかというのをつくっていただきたい。皆さんそれでよろしいか。

**(全委員)**

はい。

**(2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査等の分析について**

事務局より、資料3-1から3-4を用いて説明

(委員)

資料3-2について、第6期計画の基本方針で元気な高齢者が支える側にまわるというのがあるが、どの程度進んでいるのか。また、細かい話をすると、4つの目標があって、そのうちのいきがづくりと生活支援体制の充実、高齢者の社会参加の推進とある。ボランティアポイント制度などができたが、それ以外は全然進んでいない。これを平成29年度にどれだけできるかと考えると、おそらく難しいのかなと思う。そうすると、資料にあるように、第7期策定にとどまらず2025年度を見据えるのであれば、地域資源をどうやって発掘するのか、ここをしっかりとやらないと元気な高齢者が社会参加することができず、地域包括ケアシステムを活用できないのではないかと考える。

(会長)

具体的にこの調査の内容についての意見ではないのか。

(委員)

前日も言ったが、個人ではなくて企業もまとめなくてはだめだろう。企業も含めて地域包括ケアシステムの地域資源の一つに加えて、企業も一緒になって在宅高齢者を支えるようにしないとだめだと思う。地域資源というのは企業も入るはずで、その企業を巻き込まないと、いくら個人でやっても地域資源に成り得ないのではないかとと思う。

(会長)

具体的にはどうすればいいのか。

(委員)

今は個人しか対象としていないので、商工会議所を介して企業もいれるべきであろう。

(会長)

今日の議事内容について議論をすべきであろう。ただし、資料の多職種の意見のところの表記がこれではコミュニティ・ケア・ネットワークかわごえからしか聞かないことになってしまうので、他の職種の方もいるので、多職種等に改めるべきだと考える。

(委員)

平成25年度実施時と比べると、調査票の回収率が約16%低くなっている。回収数は今回の方が多いため大丈夫だとは思いますが、ニーズ調査はこの数で充分対応できるのか。

(事務局)

広報や市のホームページでの周知、また、民生児童委員の理事会及び地区民生委員などに協力依頼を行ったが、回収率が下がってしまった。今回サンプル数を増やしているため、回

収数は増えたが、回収率が下がったことについては今後実施する上での課題としたい。

**(会長)**

60%あれば、統計的には大丈夫であろう。

**(委員)**

資料3-3に日常生活圏域の詳細が自治会単位と書いてあって、先ほどの東・西後楽会館についても自治会館と老人憩いの家とのことであったが、自治会の全体の加入率は8割を切っており、地区によっては5割を切っているところもある。地元の自治会でも高齢の方で負担に感じて参加しないという方が結構いる。サロンもやっているのだが、光熱費、会場代、お茶代も自治会が負担しているといった時に、自治会非加入の方に声をかけてもいいものかとか、声をかけなくてもいらっしゃった方に、今のところ無下に帰れということはしていないが、それであれば自分も自治会を辞めたいという方がいっぱい出て混乱している状況がある。自治会というのは今まで使ってきたとてもいいツールだとは思いますが、それに代わるような地域でみんなに参加していく枠組みの名前だったり、急には無理だとは思いますがそういうのを3-2のような資料を作る時にも反映した方がトラブルが少なくていいのかなと感じる。

**(事務局)**

日常生活圏域ごとに集計をするにあたって、支会は自治会が集まった形であり、支会を単位として日常生活圏域を分けていることから、この自治会はどこの支会なのかが分かるように一覧表を資料として掲載するものである。

**(委員)**

私が言いたいことは、こういう区割りが便利であるから使っているとか、自治会を通して何かをお願いするとか、活動を盛り上げていくというのは一つのいい方法であるが、それだと漏れてしまう人もいるということである。発想として自治会だけを中心に回していくのではなくて、自治会に入っておらず、漏れる人もいるということ念頭にに入れてもらいたい。

**(事務局)**

その辺は十分念頭に置いていきたいと考える。

**(委員)**

資料3-2に今回のニーズ調査以外にも調査や意見聴取などが示されているが、資料を作成する際には、いつ頃行うのか等の時間軸を入れてほしい。

**(会長)**

先ほど地域課題、地域資源で意見のあった企業については、新たに枠を設けることは難しいので、たとえば地域包括支援センターや生活支援コーディネーターが企業にもしっかりと聞き取り調査をしたり、その結果をわかりやすく結果として出てくるようにするというのとは

うか。

**(委員)**

いずれにしても、個人だけではだめだということである。

**(会長)**

調査の段階で、企業や商店にも聞き取りを行うように各圏域の地域包括支援センターに意識をもってもらい、そのデータが別にわかるようになるといいと思う。

**(委員)**

アンケートの中身については前回審議したので、このまま進めていってもらえればよいと考えるが、結果が出た際には、この審議会や地域包括支援センターを集めて報告会みたいなものをやってもらいたい。話は外れるが、昨日のフォーラムで配られた資料はとても参考になったので、昨日参加できなかった方には是非資料を配ってもらいたい。その資料を見てもらったうえで次に進めていくと議論が深まると思う。

**(事務局)**

審議会終了後に配布させていただく。

**(会長)**

先日行った医療・介護フォーラムの資料もいろいろなデータが載っているので、配布できたらいいと思う。

**(委員)**

資料3-4のアンケート調査のイメージで、無回答や無効回答が入っているが、地区も多く表が分かりにくくなってしまうので、初めから無回答・無効回答は除くなど、集計方法は業者と検討したほうがよい。

**(事務局)**

検討させていただく。

事務局より、資料3-5から3-8を用いて説明

**(委員)**

資料3-8の分析イメージの中で、担い手として参加したくないがサービスは利用したいという人の割合とあるが、これを見て何かわかるのか。担い手を増やさなければならない、増やすにはどうしたらいいのか、そっちの方を分析する必要があるのではないか。

**(事務局)**

指摘のとおり、担い手が必要ということは認識している。ただ、サービスを考える上での課題としては、サービスを利用したいけどもサービスをする側には回らないといった方の把握も必要だと思い書いたところである。

**(委員)**

担い手を増やさなければいけないが、分析結果から担い手を増やすにはどうすればよいのか。

**(会長)**

それを分析するのではないか。ここでいるみんなで作っていくものなので、市に任せきりではなくて、どうしていこうかという建設的な話でいきたいと思う。資料にあるような利用したい人の割合だけではなくて、理由が聞いてみたい。それを解決するためにはどうするかというような一歩突っ込んだようなデータになっていくと良いのではないか。

**(委員)**

資料3-5の問4(4)から(8)はIADLの低下についてクロスをかけるということか。

**(事務局)**

この欄にIADLの低下と記載してあるのは、誤記であるので、削除したい。

**(委員)**

ページの都合等もあると思うので、今回の分析に全部を載せることはしなくてもよいが、例えば、「過去1年間に転んだ経験がありますか」というのと、「バスや電車を使って1人で外出していますか」とか「自分で食品・日用品の買物をしていますか」というのが相関があるのかなど、市として見たいものをクロスで見た方がよいと思う。可能であればクロスをして相関を見るものを検討してもらい、盛り込んでもらいたい。

**(事務局)**

可能な限りやっていきたいと考える。

**(会長)**

クロスすることによって違った結果が出る場合があるので、クロスさせるものは厳密にやっていかないと。データはそのまま一人歩きしてしまうので、よく相談したうえでやってもらいたい。

**(委員)**

マスターデータの使い方だと思う。実際には細かいことをやろうとすると、集計されたデ

一タや報告書はあまり役に立たないことがあり、クロスしないと細かい分析はできない。だからと言ってなんでもクロスして報告として出すというのは非常に難しいし、それを公がやるというのはあまり適切ではない。むしろマスターデータをどういうふうに、分析する人だとか必要な人が使えるかという話である。先ほど事務局より、入力したデータは市で管理するということがあったので、そのマスターデータをできる限り分析者に使いやすい形で提供してほしい。要するに、意図するクロス进行分析する者がこういうクロスをしたいんだという時にクロスしやすいように利用させるさせ方を考えてもらいたい。報告書が分厚くなっても、その報告書の中身よりも、もっと使う人が利用しやすいようにデータとして提供してあげた方が役に立つと思う。

#### (会長)

業者にやってもらうのはどこまでなのか。

#### (事務局)

入力作業と、分析についてどうするかといったところであるが、最終的な分析は市の方で行う。生データはエクセルになるかわからないが、一覧表でマスターは全部もらうということで納品になる。

#### (委員)

調査回収率もそうだが、上がってこない、把握できないニーズの方が今後もっと増えてくると思う。また、一生懸命やられている方の意図する方向とは残念ながら違う方向もたくさんあって、行政側が把握できない、こちらで全然つかめないものが膨大に増えていくということが今後起きてくる。施策に対する評価や分析が終わった時点で、その外側に分析できないニーズに対する検討を加えてセットで施策といったように進めていった方がいいと思う。欄外とかに別記でそういったものを入れていってはどうか。捕まえられないニーズはこういうふうにあるのかといった考察は設けた方が良くと思うので検討してもらえればと思う。

#### (会長)

この審議会でも、分析から何から全部やるのはほぼ不可能だと思う。そういうチームを作るのは可能なのか。専門の方が入って議論する場があってもいいのではないかと思うので検討してもらいたい。

#### (委員)

先ほど同様の意見があったが、回答しない人の中には、回答したくてもわからないなど、いろいろな人がいると思う。この回答の無い4割の人の中に実は大変で手を差し伸べる必要がある人がいるかもしれないので、回答していない人の抽出のようなものも必要かなと考える。その辺を検討してもよいのではないかと考える。

**(委員)**

おそらく男性と女性でかなり違った結果が出ると思うので、一覧表には性別の結果を出してもらいたい。資料で年齢層が一部抜けているところがあるので、実際に集計する際には入れるようにしてもらいたい。

**(会長)**

このような形で進めていくという素案ができたということだと思うがどうだろうか。前回の時もそうであったが、ただデータが出てきてそれで終わりではなく、そこから勝負だと思う。これが第7期計画の大元になるので、とても大事なのでしっかりやっていきたいと思う。細かいところで何かあれば、事務局の方に伝えてその中で調整してもらえればと思うがよろしいか。

**(全委員)**

はい。

5 その他

事務局より、平成29年1月25日にコミュニティ・ケア・ネットワークかわごえ・川越市医師会・川越市主催で行った「第4回医療・介護フォーラム」と、平成29年2月2日に川越市・川越市社会福祉協議会が主催し、公益財団法人さわやか福祉財団の共催で行った「地域の支え合いフォーラム」についての報告があった。

6 閉会